

## 社会科における思考力・判断力・表現力の育成に係る プレゼンテーション指導の在り方

戸田 浩 暢\*

(2015年2月6日 受理)

### On Presentation Instructions for Developing Thinking, Decision Making and Expression in Social Studies

Hironobu TODA\*

In this paper, I will discuss how presentation instructions should be, in special reference to the presentations delivered by students or children in the social studies classes designed for developing thinking, decision making and expression. I will begin with discussing the skills developed through presentation instructions, and then I will demonstrate how presentation and presentation instructions should be. At the end, I will discuss the practical side of presentation instructions.

**Keywords:** social studies 社会科, thinking, decision making and expression 思考力・判断力・表現力, presentation instructions プレゼンテーション指導

#### 1. 問題の所在

中央教育審議会において取り纏められた「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(答申)が、2008(平成20)年に出された。この中の、「学習指導要領改訂の基本的な考え方」の7項目の中に、「思考力・判断力・表現力等の育成」があげられている。ここでは、「子どもたちの学力に関する各種の調査の結果は、いずれも知識・技能の活用など思考力・判断力・表現力等に課題があることを示している。今回の改訂においては、各学校で子どもたちの思考力・判断力・表現力等を確実に高くむために、まず、各教科での指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある。」<sup>1)</sup>とされている。また、授業において、思考力・判断力・表現力等の育成には、「①体験から感じ取ったことを表現する。②事実を正確に理解し伝達する。③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。④情報を分析・評価し、論述する。⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。」<sup>2)</sup>などの学習活動が大切であるとされており、プレゼンテーションの重要性が指摘されている。

社会科で求められる「思考力・判断力・表現力」については、小原友行が、「既に習得している基礎的な知識・概念・技能を活用して、社会的現象や問題に対する『どのように、どのような』『なぜ、

\* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授

どうして』『どうしたらよいのか、どの解決策がより望ましいのか』という問いに答えていく力」と捉えることができるとし、「知る・わかるだけでなく、その背景を熟考し、自分なりの意見や考えを持ち、それを表現しながら社会への参加・参画を考える力」<sup>3)</sup>と述べており、その育成の一手段として授業におけるプレゼンテーションが重要となる。

本稿では、上記の思考力・判断力・表現力の育成に係り、社会科の授業における児童・生徒によるプレゼンテーションを取り上げ、望ましい指導の在り方を考察する。始めに、プレゼンテーションで育成する思考力・判断力・表現力について述べ、プレゼンテーションの在り方とその指導の在り方を考察し、最後にプレゼンテーション指導の実際について具体を述べる。

## 2. プレゼンテーションで育成する思考力・判断力・表現力

「プレゼンテーション」は、『広辞苑（第六版）』に「会議などで、計画・企画・意見などを提示・発表すること」と記されている。このことから、「社会科におけるプレゼンテーション」は、「社会科の授業で、児童・生徒が、調べたことや考えたことなどを提示・発表すること」とすることができる。

プレゼンテーションは、「発表すること」の能力、すなわち「表現力」を育成することに大きく関わってくる。しかし、先に示したように、「表現力」は、「思考力・判断力」と切り離せない。社会科におけるプレゼンテーションは、社会科で求められる「思考力・判断力・表現力」を総合的に育成することに関わってくる。このことについては、有田嘉伸が、社会科の授業における報告・発表という活動は、「学習者の内にあるもの、または理解して内のものにしたものについて、それを外部に表現してみ、反省し、批判し、検討して、いっそう確かなものにして体得させる学習活動である。」とし、報告・発表を主にした学習の利点として、「報告は口頭による発表の能力を発達させ、発表の自信を高め、それを契機として学習の興味を喚起し、思考を刺激する。」<sup>4)</sup>と、思考との関わりを指摘している。

さて、「学習指導要領改訂の基本的な考え方」を受け、「社会、地理歴史、公民」の「改善の基本方針」には、「コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する方向で改善を図る。」<sup>5)</sup>とされ、小学校社会科の「改善の具体的事項」では、「作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実させることにより、学習や生活の基盤となる知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して観察・調査したり、各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、比較・関連付け・総合しながら再構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実を図る。」<sup>6)</sup>ことが、実際の授業において求められている。

このことは、2008（平成20）年に改訂された新学習指導要領の小学校社会科の各学年における目標に反映されている。従前の、1998（平成10）年版の記述と比較してみると、「地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする。」と示してあったものが、「地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」とされている。つまり、自らが調べて考えたこと

を表現する力、すなわち社会科で求められる「思考力・判断力・表現力」を、プレゼンテーションを通じて総合的に育成することが望まれている。

### 3. 社会科におけるプレゼンテーションの在り方

プレゼンテーションを行う際には、まず観察が重要になってくる。観察することで情報を収集し、発表の目的に応じて事実を把握し、整理することが求められる。観察には、実在する事象や事物を対象とする直接観察と、絵・写真や図表、文書、映像、音声など資料化された事象や事物を対象とする間接観察に分けられる。直接観察としては、野外調査が主な学習活動として考えられる。地域に出かけ、実際に観察・調査を行い、授業の目的に応じて資料の収集と整理・分析を行う。観察・調査を行う場合、ありのままに観察する、数や量に着目して調査する、他の事象と対比しながら観察・調査する、まわりの諸条件と関係付けて観察・調査することなどが考えられる。間接観察としては、資料活用が主な学習活動として考えられる。資料は様々なものがあるので、発表の目的に対応して、複数の資料を適切に収集・活用する必要がある。資料活用に関しては、資料から必要な情報を的確に読み取る、資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える、必要な資料を収集する、複数の資料を関連付けて読み取る、必要な資料を選択・吟味する、資料を整理したり再構成することなどが考えられる。

このようにして観察から得られた情報を活用しながら、探究に基づいた知識・理解や思考し判断した結果、または意思などをプレゼンテーションしていくことになる。

プレゼンテーションの形態としては、①絵画等活用プレゼンテーション、②造形物活用プレゼンテーション、③視聴覚機器活用プレゼンテーション、④再構成活用プレゼンテーションなどが考えられる。

まず1点目の「絵画等活用プレゼンテーション」であるが、自分やグループで観察・調査したことを一枚の絵ないしは絵本・漫画に纏め、発表する活動である。文章で表現すると膨大な量になることが、社会的事象や社会的関係などの複雑なものを単純化して表現することができる。郊外にある大型スーパーマーケットの内と外を観察し、模造紙に表現して、「なぜ、校外に大型スーパーマーケットはあるのだろうか」「駐車場の大きさはどれくらいで、なぜこのような駐車場が必要なのだろうか」「なぜ、野菜売り場が入り口付近にあるのだろうか」「なぜ、精肉コーナー、肉類加工コーナー、鮮魚コーナー、惣菜コーナーは壁づたいに並んでいるのだろうか」「なぜ、レジ付近にお菓子のコーナーにあるはずのガムが陳列してあるのだろうか」「なぜ、野菜コーナーに鍋に使う出汁が置いてあるのだろうか」などの学習課題を提示しながら説明をしていく学習や、環境の保全の在り方に関する絵を描いて、発表することで学習のまとめを行う活動なども絵画的プレゼンテーションの一例である。

2点目の「造形物活用プレゼンテーション」であるが、絵画等活用プレゼンテーション同様に、自分やグループで観察・調査したことを模型などの造形物として表し、発表する活動である。例えば、段ボール箱と模造紙、絵の具を用意し、観察してきた郵便ポストを作成して、「なぜ、郵便ポストは赤いのか」「なぜ、このようなかたちになったのか」「郵便のマークはなぜ『〒』なのか」「なぜ、手紙を入れる口は一つのもの二つものがあるのか」「手紙を入れる口の数と郵便ポストの置いてある場所はどのような関わりがあるのか」「郵便ポストの口の大きさとか工夫は何か」などの学習課題に応じて発表していく活動が考えられる。こうした観察物の模型を作ることにより、社会的な機能な

どを理解し事実を具体的に捉えていくことが容易になる。

3点目の「視聴覚機器活用プレゼンテーション」であるが、音声や映像を収集して社会的事象を捉えたり、編集や加工を行うことで、自己の思考・判断を表現する活動である。デジタル式のビデオやカメラの発達によって、以前に比較し、随分と容易に音声・映像を収集することが可能になった。また、デジタルであるので、収集したデータをコンピュータに取り込み、プロジェクターで分かりやすく表すことができるようになってきた。消防署にビデオやカメラを持って行き、消防署の風景をカメラで撮影したり、消防署で働く消防士や署長にインタビューを行ったりする活動や、駅に行って、駅員や駅長にインタビューを行い、発表する活動が考えられる。録音・録画したものを加工し、教室で提示しながら、「消防士はどのような活動を日常は行っているのか」「なぜ、そのような活動を行うのか」「駅にはどのような工夫があるのか」「駅の施設や掲示の工夫はなぜ行っているのか」などの学習課題に応じて発表していく活動は、実感をもって理解を深めていくことに繋がる。

4点目の「再構成活用プレゼンテーション」であるが、調査したことをテーマに基づいて、地図、年表、統計資料や学習新聞等に再構成したものを発表する活動である。学習課題に応じて、オリジナルの地図、年表、統計資料を作成するわけだが、例えばコンビニエンスストアに関して、「地域のどこにコンビニエンスストアはあるのだろうか」「なぜそこにコンビニエンスストアはあるのだろうか」「いつ頃からコンビニエンスストアはあるのだろうか」「なぜコンビニエンスストアは増えたのだろうか」「コンビニエンスストアでは何が多く売られているだろうか」「地域の人口・世帯はどのように変化したのだろうか」「新たにコンビニエンスストアをつくとしたらどこにつくるか」などについて発表を行っていく活動が考えられる。また、学習新聞に関しては、新聞の特色である記事・社説・コラム・投稿欄などの内容面や写真・図表を組み合わせた構成面に気付かせる。そして、記事では学習テーマに対応して事実とその根拠となる資料を掲載し、社説・コラムでは事実に対する意見・考えを書き、投稿欄では多様な意見を掲載して多面的・多角的に社会的事象を捉える必要がある。

#### 4. 社会科におけるプレゼンテーション指導の在り方

プレゼンテーション指導を行う場合、一般的に、次の9つの段階が考えられる。①プレゼンテーションを行うことの意義・意味の伝達について、②発表テーマの決定・調査について、③自己の意見の組み立てについて、④プレゼンテーションの方法について、⑤プレゼンテーションの発表構成について、⑥質疑応答の方法について、⑦効果的なビジュアル提示について、⑧聴き手に伝える方法について、⑨プレゼンテーションの評価について。

1点目の「プレゼンテーションを行うことの意義・意味の伝達について」については、プレゼンテーションを行うことでどのようなことが達成できるのかを児童・生徒に十分周知することである。発表に至るまでの過程において、情報収集力、資料の整理・選択力、資料の分析・読解力、複数の資料に対する比較・検討力、分析の結果に基づく資料の再構成と効果的な表現力等を身に付けることができ、「思考力・判断力・表現力」の育成に繋がることを理解させる必要がある。2点目の「発表テーマの決定・調査について」は、具体的に、発表テーマを決めさせ、調べる方法や調べる計画について指導する。その際、「何が分かりたいのか」「何を探究したいのか」等について、指導者は十分児童・生徒と話し合う必要がある。また、情報カードの作成など、資料収集・整理の在り方に

についても言及することが求められている。3点目の「自己の意見の組み立てについて」は、集めた情報を整理し、情報の意味を理解させ、情報カードから意見のリストを作らせる。そして、複数の情報カードから意見を組み立てさせ、自分の意見を形成させる。ここでの指導が特に児童・生徒の思考力・判断力の育成に関わっているため、十分時間を取って考えさせる必要がある。4点目の「プレゼンテーションの方法について」は、発表形態について、自己の発表の内容から、どのような方法があるか考えさせる指導である。5点目の「プレゼンテーションの発表構成について」は、どのような筋道で発表すれば、論理的で分かりやすいのかを組み立てさせる指導である。6点目の「質疑応答の方法について」は、聴き手からの質問を想定して回答のリストを作成させ、どのように回答すれば分かりやすいかを考えさせる指導である。7点目の「効果的なビジュアル提示について」は、聴き手にわかりやすいような絵・図表・写真・映像の効果的な示し方について指導する。8点目の「聴き手に伝える方法について」は、伝える技術について指導し、非言語コミュニケーションについても言及したい。また、聴く技術についても指導する必要がある。9点目の「プレゼンテーションの評価について」は、プレゼンテーションを行ってみて、他者評価とともに自己評価をする観点を明確にするとともに、「わかったこと」「わからないこと」「わからなくなったこと」などを明らかにし、次の学習に繋がるような指導を行う必要がある。

児童・生徒がプレゼンテーションを行って身に付ける表現力は、思考力・判断力の育成と一体のものである。これまでの社会科の実践においても、児童・生徒が学習課題に応じて形のあるものや目に見えるものにまとめ、学級内でプレゼンテーションを行ってきたが、一般的に、プレゼンテーションが主に単元のまとめの時間に設定されてきたのは、このことの表れである。そして、プレゼンテーションを評価するに当たっては、発表を行うという表現活動の結果だけでなく、観察・調査したことを整理・分析・総合していくという、授業過程全体の児童・生徒の学習状況を捉えて行く必要がある。

## 5. 社会科におけるプレゼンテーション指導の実際

プレゼンテーション指導の要となるのは、テーマ性を持った発表構成の指導にある。修学旅行等で、日本の近代化、戦争・平和について、また科学技術創造立国を目指す我が国の在り方を学習した際、報告会では①～⑥の順の写真提示を指導したい。広島県呉市を事例とするが、各地域でも同様の建造物等を用いることが可能である。歴史の変遷を適切に把握させ、事実に基づき、自己の考察を明確に表現できるよう、発表構成の指導を充実させたい。

### ① 平清盛公日招像―地域に関わりのある歴史的人物：導入―

音戸の瀬戸を一日で切り拓くため、沈む夕日を招き返したという伝説があり、平清盛の権勢を表す像が建立されている。

### ② 旧高鳥砲台兵舎跡―祖国防衛：展開Ⅰ―

平清盛公日招像のすぐ下に、明治29年に外国船の侵入を防ぐため設置された砲台がある。各地にその遺構が存在するが、呉市広横路の大空山等にも現存する。

### ③ 旧呉鎮守府司令長官官舎―戦争：展開Ⅱ―

呉湾を望む入船山には、軍都呉の象徴である司令長官官舎がある。近くには、東郷平八郎の居住した家の離れ座敷もある。



① 平清盛公日招像



② 旧高鳥砲台兵舎跡



③ 旧呉鎮守府司令長官官舎



④ 戦艦大和戦死者之碑



⑤ 戦艦大和建造ドック跡



⑥ てつのかじら館&大和ミュージアム

④ 戦艦大和戦死者之碑—戦没者等への慰霊：展開Ⅲ—

長迫公園（旧海軍墓地）には、戦艦大和戦死者之碑の他、多数の慰霊碑があり、花を手向ける人が後を絶たない。

⑤ 戦艦大和建造ドック跡—日本の近代化と復興・発展：展開Ⅳ—

明治以降の日本の歴史を象徴する工場群（旧呉海軍工廠跡）が「歴史の見える丘」から一望できる。また、第二次世界大戦後、世界の造船国へ発展する一翼を担ったドックを見渡すことができる。有数の臨海工業都市として発展した呉市の、ものづくりに対する取組みを実感することができる。

⑥ てつのくじら館&大和ミュージアム—科学技術創造立国：終結—

現役潜水艦を「アレイからすこじま」の公園から見ることができるが、海上自衛隊呉史料館では退役潜水艦「あきしお」の艦内を見学できる。隣接した呉市海事歴史科学館では、日本の近代化の礎となった造船・鉄鋼等、各種の科学技術を、先人の努力や当時の生活・文化に触れながら紹介しており、平和を守ることの大切さと、将来の我が国の在り方を考えさせてくれる。

（写真協力 広島県立呉三津田高等学校 岡寄友一）

## 引用文献

- 1) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」2008年、p. 24
- 2) 前掲書1), p. 25
- 3) 小原友行「社会科でこそ育成する『思考力・判断力・表現力』」小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 小学校編』明治図書、2009年、p. 9
- 4) 有田嘉伸「報告・発表」永井滋郎・平田嘉三編『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書、1981年、p. 277
- 5) 前掲書1), p. 79
- 6) 前掲書1), p. 80

## 参考文献

- 戸田浩暢「社会科におけるプレゼンテーション指導」社会認識教育学会編『新社会科教育学ハンドブック』明治図書、2012年、pp. 265-272
- 戸田浩暢「写真で紹介 社会科教師の新しい取り組み 『プレゼン指導の極意』」『社会科教育 NO.658』明治図書、2014年2月、pp. 2-3